

平成18年度 事業報告書

平成18年4月1日から平成19年3月31日

特定非営利活動法人 南房総文化財・戦跡保存活用フォーラム

1. 特定非営利活動事業の成果

私たちは、市民の生涯学習がまちづくりに生きる「地域まるごと博物館」構想の実現を旨とし、地域にある里見氏城跡や戦争遺跡などの歴史・文化遺産を活用して、スタディツアーのガイド事業を中心にガイドブック等の書籍発行や地域づくりの事業をおこなってきた。

これまでおこなってきた里見氏稲村城跡や赤山地下壕の保存運動をはじめとする教育や地域づくりの実績が高く評価され、財団法人あしたの日本を創る協会主催のあしたのまち・くらしづくり賞において栄えある内閣官房長官賞を受賞した。受賞理由は、時代とともに忘れ去られ破壊されゆく状況にあった地域資源をまもり、多様な連携による工夫と手法を用いた情報発信と、幅広い人材育成と活用を図り、地域の活性化につながる「新しい公共」活動を実践した貢献が認められた。

また、館山市名誉市民である故小高熹郎氏が亡くなって10年間放置されていた大正期の銀行建物(旧小高記念館)を借り受けて補修しながら、地域の文化振興に寄与した故人の遺志を継いで、「小高熹郎記念館～たてやま海辺のまちかど博物館」を開館。コミュニティの交流拠点および、地域の歴史・文化の学べる生涯学習の場として運営している。これを契機として、館山を拠点として発展してきた近代水産業と水産教育に関する歴史・文化を検証し、「近代水産業に貢献した人びと～関澤明清と小高熹郎の足跡をたずねて」を開催、ゆかりの地をめぐるウォーキングとシンポジウムをおこなった。同時に、まちなかエリアの歴史・文化も掘り起こし、産業振興や転地療養、震災復興などをテーマとして、先人たちの知恵を学ぶウォーキングもおこなった。

日本旅行業協会(JATA)では「地球にやさしい市民活動」の助成事業として、<『南総里見八犬伝』と『海の幸』を活かした地域づくり>のテーマで採択され、千葉県NPO活動パワーアップ補助金にはくジュニアテキスト～ふるさと探検隊『海とともに生きるまち』>事業が採択された。館山で描かれた名画『海の幸』や、明治期に渡米して活躍し日米親善に高い貢献を果たした房総アワビ漁師らを象徴として、日本列島のほぼ中央で太平洋に突き出た房総半島ならではの、海洋文化や歴史を活かした地域づくりを実践した。内閣官房都市再生本部モデル事業では、「歴史・文化・文学等の資源を基点とする市民ネットワーク型観光産業創造に関する調査事業」(主体:たてやまコミュニティビジネス研究会)と、「南房総地域活性化のための“コミュニティ・シェアズ”の導入検討事業」(主体:シーズ=市民活動を支える制度をつくる会)の2事業に積極的に参画し、大きな役割を果たした。

2007年2～4月に、首都圏初の観光戦略「ちばDC(デスティネーション・キャンペーン)」があり、1年間かけて養成した里見ガイドを中心に、JRタイアップのツアー商品「里見八犬伝ロマン紀行」をはじめ、JR会員制旅行商品「大人の休日」など一般公募のツアーにも対応し、地域活性化に貢献した。

まちなかエリアでは空き店舗を活用して、地域の歴史・文化を紹介する「まちかどミニ博物館」を6軒開設。多くの市民サークルや千葉県立安房水産高校・国立海洋技術学校等の参画・協力を得て、観光客ばかりでなく市民にもたいへん喜ばれた。SLの特別運行に合わせて開館した鉄道グッズ展では、鉄道OB会の協力も得て、鉄道ファンの感動を呼んだ。また、10年前に館山を舞台に撮影された人気TVドラマ『ビーチボーイズ』展では、いまだ根強いファン層がスタッフとして県内外から駆けつけ、来訪者をもてなした。

さらに千葉大学や聖徳大学、あるいは企業等との多様な連携も実現し、市民が主役となった地域づくりと交流文化のネットワークが広がり、今までにない観光まちづくりの第一歩となった。

2. 特定非営利活動に係る事業実施に関する事項

事業名 ①文化財や戦争遺跡を活用したガイド事業

事業内容 文化財や戦争遺跡を活用して、学校の平和研修や総合学習はじめ公民館講座や各種団体の地域づくり視察等スタディツアーのガイド活動、講演などを実施。また、生涯学習を通じて観光まちづくりに寄与するために、赤山地下壕や館山城跡などの無料ガイド、里見ウォーキング等を実施。

実施日時 年間を通じて随時

実施場所 安房郡市の文化財や戦争遺跡の現地見学と公共の施設など

従事者数 延べ850名

受益対象者の範囲及び人数 見学者延べ4,846名(210団体)

支出額(千円) 1,799千円

事業名 ②書籍等出版販売事業

事業内容 地域の埋もれた歴史・文化を調査研究し、房総半島固有の地域像を紹介したガイドブックを作成。「あわ・がいで」シリーズ3部作『戦争遺跡』『房総里見氏』『海とともに生きるまち』は、スタディツアーにおいてテキストとして利用。一般書店で有償頒布。簡易パンフレット「安房国再発見」は無料配布。

実施日時 年間を通じて随時

実施場所 見学現地及び書店

従事者数 10名

受益対象者の範囲及び人数 不特定多数(頒布数は1,000冊)

支出額(千円) 1,842千円

事業名 ③ その他の特定非営利活動事業

事業内容 生涯学習のまちづくりと新しい交流文化を育むために、近代化遺産(大正期の銀行建物)を再生・活用して、コミュニティの交流拠点である「小高熹郎記念館～たてやま海辺のまちかど博物館」を開館した。今年度は、「近代水産業発展に貢献した人びとの足跡」の資料展を開催。海に囲まれ、太平洋世界に開かれた房総半島南部ならではの歴史・文化を検証し、それらを活かした文化交流と地域づくりを推進。

実施日時・場所等 別表のとおり

支出額(千円) 1,654千円

実施日時 事業名 (おもな事業)	実施場所	従事者数	受益者の 範囲と人数	支出額 (千円)
2006.6～2007.3 小高熹郎記念館～海辺のまちかど博物館	館山市	270名	2,000名 (市民・来訪者)	741
2006.11～2007.4 ちばDC まちかどミニ博物館	館山市	350名	3,000名 (市民・来訪者)	709
2006.4.16～5.6 明治期に渡米したアワビ漁師の日米交流	南房総市・ 米国加州	10名	60名 米国は不明	115
2006.9.9 近代水産業の発展に貢献した人びとの足跡	館山市	20名	60名	58